

海外新着情報（4月更新）

海外新着情報では、神奈川県との協力による海外駐在員との連携の中で得た「海外での企業活動の現状に関する情報」をご案内します。

○ 中国

・中国各地と大連の新型コロナウイルス感染拡大状況について

～中国・大連～（2022年3月24日）

3月中旬に入り中国各地で新型コロナウイルスの感染拡大が確認されています。最も感染が広がっている吉林省では、長春市と吉林市の2市で約20,000人の感染者が確認（3月23日時点）されているほか、上海や深圳などの複数の都市でこれまで最も感染者数が多くなっています。これを受けて、各都市では地域ロックダウンなどの厳格な防疫体制が敷かれています。

大連市では3月14日に感染者が確認されて以降、一部地域及び全市域での複数回のPCR検査が実施され、感染者が多く確認された金普新区（開発区地域を含む行政区）では3月18日から地域ロックダウンが実施され、市内中心部との交通が遮断されています。

また、3月23日には領事事務所や大手日系企業が多数入居する「大連申貿大廈（旧森ビル）」で感染者が確認され、当日はビル滞在者全員へのPCR検査が実施された上、翌24日はビルの消毒作業等のため臨時閉鎖となるなど、市内中心部でも緊張感が高まっています。

北京冬季オリンピック・パラリンピックが終了し、中国のゼロコロナ政策の緩和が期待されていましたが、現在も厳格な防疫体制が続いており、政策の緩和が進む各国との分断に不安の声が上がっています。

○ 東南アジア地域

・タイ渡航前のPCR検査、4月1日以降撤廃へ

～タイ・バンコク～（2022年3月22日）

タイ政府は、入国者に義務付けている渡航前72時間以内のPCR検査について、4月1日以降は撤廃することを決めました。

入国者には、タイ到着直後のPCR検査と5日目の簡易検査が義務付けられます。

新型コロナウイルスと共存しながら経済・社会活動の再開を目指すエンデミックに向けた移行計画では、入国者に対するPCR検査や簡易検査の実施義務を7月以降全面的に廃止することを計画しています。

- 日本から隔離なし短期渡航も可能に

～ シンガポール ～ (2022年3月28日)

ベトナム保健省は15日、海外からベトナムへの入国者について、出国前に受けた新型コロナウイルス検査が陰性であれば、入国後の検査および隔離措置が不要となる方針を示した。

空路で入国する場合、PCR検査であれば出国前72時間以内、迅速抗原検査であれば出国前24時間以内に実施した検査において陰性であることが必要となる。

ベトナム政府は3月15日、日本など13カ国を対象として、ビザ免除措置を再開することを決定した。

- 予防接種がすべての年代で予約不要

～ シンガポール ～ (2022年3月18日)

シンガポール保健省は17日、新型コロナウイルスのワクチンの接種資格がある全体的な人が、年齢にかかわらず予約なしで接種できるようになったと発表しました。これまでは5歳から12歳までは予約なしの接種が可能な時間の制限があり、13歳から17歳までは政府の専用サイトで予約をする必要がありました。

- 大幅な行動制限緩和、隔離なし短期渡航も可能に

～ シンガポール ～ (2022年3月28日)

シンガポール保健省は24日、29日から集会人数を5人から10人に緩和し、屋外でのマスク着用は義務としないこと、事務所への出勤上限も50%から75%とすることなどを内容とする緩和措置を発表しました。

さらに4月1日からは、ワクチン接種済みであることを条件にすべての国からの隔離なし渡航を認めることを発表しました。これにより、日本からの隔離なし渡航も可能となります。ただし、渡航2日前までに行う検査は引き続き必要です。

○ 北米地域

- 米運輸保安局、交通機関でのマスク着用義務を4月18日まで延長

～ 米国・ニューヨーク ～ (2022年3月18日)

3月10日、米国土安全保障省(DHS)傘下の運輸保安局(TSA)は、18日に終了を予定していた公共交通機関でのマスク着用義務を、4月18日まで延長すると発表しました。航空機や電車、バスなど公共交通機関でのマスク着用は、TSAが2021年1月31日から義務づけているもので、違反した場合には罰金が科されません。

かかる延長期間中に、いつどのような状況で公共交通機関施設内でのマスク着用が義務付けられるべきかの規制の改定内容を決めていくとしています。